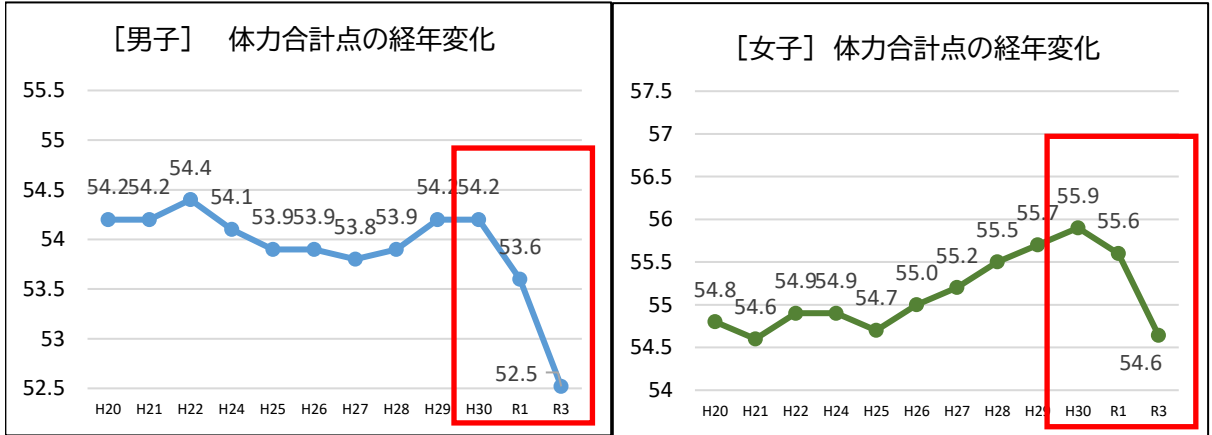


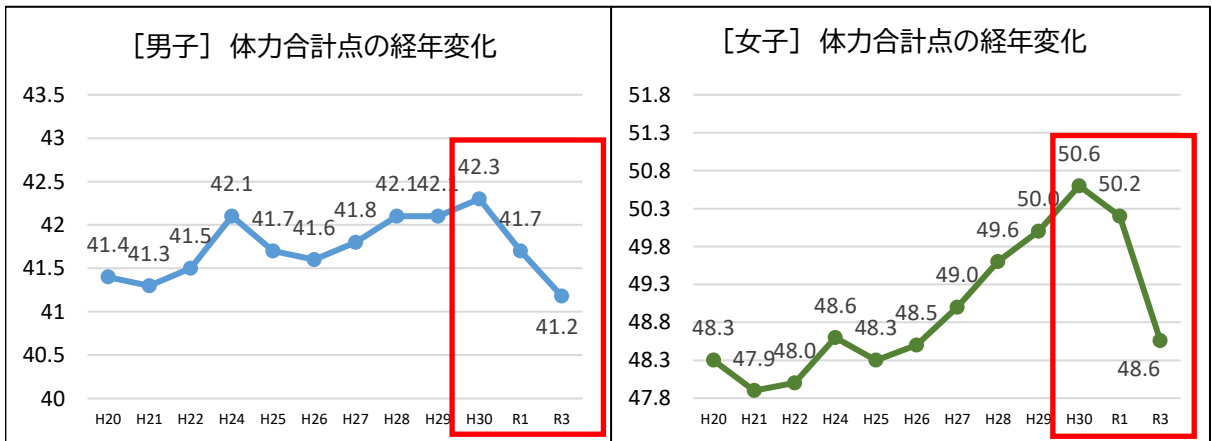
令和3年度 全国体力・運動能力運動習慣等調査の結果のポイントについて

平成20年度の調査開始以降の推移をみると、令和3年度は小・中学生の男女ともに低下した。特に、小・中学生男子は過去最低の数値であった。

(小学校) (全国平均)



(中学校) (全国平均)



低下の要因

低下の主な要因としては、令和元年度から指摘された、

- 運動時間の減少 ⇒ 1週間の総運動時間が420分以上の割合の減少。特に男子が顕著。
 - 学習以外のスクリーンタイム*の増加 ⇒ 視聴時間が2時間以上の割合が増加。特に男子が長時間化。
 - 肥満である児童生徒の増加 ⇒ 特に小学生男女、中学生男子は過去最大の数値。
- について、新型コロナウイルス感染の影響を受け、更に拍車がかかったと考えられる。

また、コロナの感染拡大防止に伴い、学校の活動が制限されたことで、体育の授業以外での体力向上の取組が減少したことも考えられる。

*スクリーンタイム…平日1日当たりのテレビ、スマートフォン、ゲーム機による映像の視聴時間